

向後さん・白土の4名で、総勢25名でした。午前中は猿田神社奥宮付近の森でのきのこ探しを1時程実施。森はスタジイとマテバシイを主体とした照葉樹林で、皆さん、落ち葉の中や枯れ枝に寄生したり(生える)しているきのこを次々と発見。木によつて生えるきのこが違うため、木と一緒に取るため太い枯れ枝に生えているきのこはノコギリで枝を切断しました。

午後は、センターの実験室での観察とまとめて、観察記録や標本の作成等を行いました。見つけたきのこは、何と23種類でした。きのこの標本はそのまま(生)では腐敗や破損の原因になるという事で、標本を乾燥処理のため温風乾燥機にかけました。「標本は後日、チャック付きポリ袋を標本の数だけ持参し、各自がセンターに受け取りに来て、その袋にラベルと共に標本ごと収納し整理するように。」と、今後の標本の

銚子の風で発電！ 地球にやさしいエネルギー！



川原 俊久

7月26日(日)表題のツアーが行われました。サポートは小玉さんと川原でした。参加者は9才〜11才の小学生10人とその親御さんです。住所は銚子1名、波崎1名。あと香取、旭、匝瑳でした。

午前は銚子气象台で話を聞き、その後気象台の気象予報作業室、屋上、「アメダス」計測現場を見学しました。話は最初銚子の気象台は明治の初め民間の気象観測所として始まり、その後国の銚子気象台となったとのことでした。あと、クイズ形式で地球の温暖化が進んでいるこ

と、それについて温暖化を止める「対策」と温暖化時の「対応」が必要なことを分りやすく解説されました。

午後はジオパーク芸術センター理科室で「東京電力リニューアブルパワー(株)」担当者の風力発電の話と風力発電機の模型の工作がありました。話は発電の仕組みの解説、地球温暖化防止のためには水力、風力での発電を増やす必要があることを説明されました。その後工作となり、小さなスタンドに風車、発電機、「E」をつなぎ息で風車を回すと「E」が灯くことを確認しました。最後に10台の「VR(仮想現実ゴーグル)」で現在屏風ヶ浦にある風力発電試験機の内部点検の仮想体験をしました。このゴーグルで見ると本当に発電機上部にしているような視界が体験できました。子供たちは午前も午後も熱心に話を聞き、見学し、工作をしました。

今回のツアーでの話題は地球温暖化とその対応としての洋上風力発電と大きな話であり、子供たちが今回のツアー経験をきっかけにして、どのような自由研究にしていくなか興味を感じました。

銚子のマイクロプラスチックを調べよう！

井川 浩良

8月1日(土)、講師に千葉科学大学手束聡子先生をお迎えし、主催者側からは推進協議会の岩本専門員サポートは市民の会の田中氏、石毛氏、井川の3名。そして

親子7組15名の皆さんが参加された。

まず銚子ジオパーク芸術センター実験室で「マイクロプラスチックって何？」について、何処で、どのように発生したかを、皆で考え、各プラスチックを理解。

各自持参したペットボトルを加工し、飯岡の海岸にて砂の採取。堆積物がたまりやすい場所を講義で聞いたことを生かし、楽しんで採取を行った。

午後1時 再び実験室にて「プラスチックは水に浮くのか？」を学ぶ。特にペットのプラスチックが沈んだときなど身近な製品が海底にある状況から「食物連鎖」を通じて自分で捨てた「ゴミ捨て」が招く環境影響を更に深く理解した。最後は貝殻に各自が集めたプラスチックを使い素晴らしいオブジェを作成・展覧。共感と皆で



飯岡海岸にて



作成されたオブジェ

リスペクトした自由研究は、親子の皆さんが満足した笑顔で終了した。

初めての石ころ観察！ ミツア

加瀬 久美子

私は7月2日(日)表題のツアーの午前の部に参加させて頂きました。集合場所は長崎町防災空地に9:30分集合。保護者9人子供10人が参加。大きな目標は、色粒の違い、手触り、模様を観察して石ころの「同じところ」と「違うところ」を見つけようでした。講師は上田専門員